



環境チャレンジ!
TakasaGo!



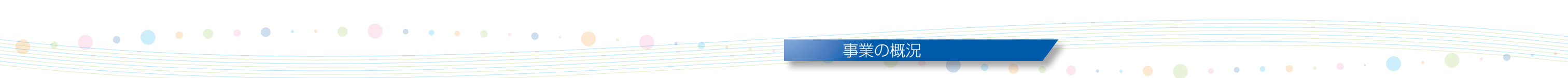
高砂熱学工業株式会社

第140期 中間報告書

2019年4月1日から2019年9月30日まで | 証券コード：1969

Contents

事業の概況	1
TOPICS	4
連結財務諸表	6
株主還元について	7
会社情報	8
株式情報	9



ごあいさつ

株主の皆様には、格別のご高配を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第140期第2四半期累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間は、当初計画を上回る成果をあげることができました。これも、ひとえに株主の皆様のご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社の発展にご期待いただき、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長 社長執行役員 **大内 厚**

事業の概況

■ 事業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国内の各種政策効果を背景として、企業収益は引き続き高水準を維持し、雇用・所得環境の着実な改善や設備投資の増加傾向が継続するなど、国内景気は緩やかな回復基調で推移しました。

建設業界および当社関連の空調業界におきましては、海外経済の不透明感の高まり等から製造業の設備投資に一部弱さが見られたものの、大都市圏を中心とした大型再開発案件の進展や非製造業の設備投資の緩やかな増加等により、建設需要は総じて底堅い状況が継続しました。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間は、受注高および売上高とも連結開示以降の最

業績のポイント

- ① 受注高・売上高ともに、連結開示以降の最高額
- ② 売上総利益を含む各利益は、創業以来の最高額
- ③ 経常利益率・四半期純利益率は、連結開示以降の最高値

良好な事業環境は継続。収益性も最高水準を回復

高額となりました。

また、売上総利益を含む各利益 や 収益性 につきましても、これまで最高であった2018年3月期を上回っており、令和元年は 平成以降、最高水準の業績でスタートする結果となりました。

社是

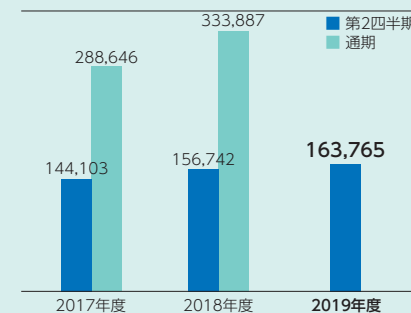
人の和と創意で社会に貢献

経営理念

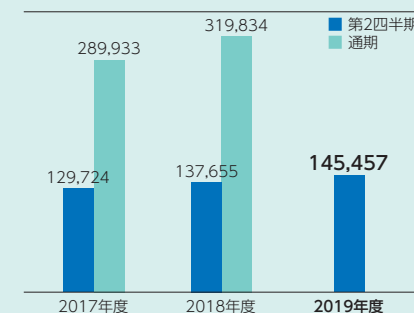
1. 最高の品質創りを重点に社業の発展を図り社会に奉仕する
2. 全員の創意を発揮し顧客のニーズに対応した特色ある技術を開発する
3. 人材育成と人間尊重を基本として人の和と品性を高揚する

連結財務ハイライト

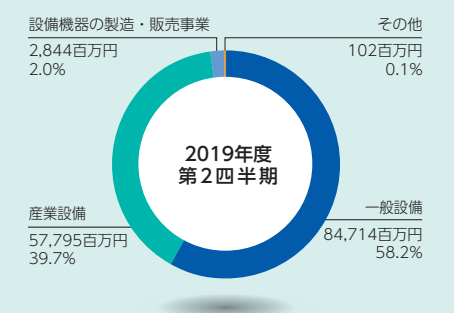
■ 受注高 (単位：百万円)



■ 売上高 (単位：百万円)



■ 売上高構成比



■ 当第2四半期の業績

受注高

当第2四半期連結累計期間の受注高は、前年同四半期連結累計期間（以下「前年同四半期」といいます。）を4.5%上回る1,637億円となりました。

一般設備は前年同四半期を5.1%上回る915億円、産業設備は前年同四半期を3.8%上回る687億円となった結果、設備工事業は前年同四半期を4.5%上回る1,602億円となりました。

設備機器の製造・販売事業等は、前年同四半期を1.9%上回る34億円となりました。

その構成比は、一般設備が55.9%、産業設備が42.0%、設備機器の製造・販売事業等が2.0%であり、海外工事が全体に占める割合は17.0%であります。

売上高

当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期を5.7%上回る1,454億円となりました。

一般設備は前年同四半期を3.5%上回る847億円、産業設備は前年同四半期を10.0%上回る577億円となった結果、設備工事業は前年同四半期を6.1%上回る1,425億円となりました。

設備機器の製造・販売事業等は、前年同四半期を10.8%下回る29億円となりました。

その構成比は、一般設備が58.2%、産業設備が39.7%、設備機器の製造・販売事業等が2.0%であり、海外工事が全体に占める割合は16.2%であります。

利益

当第2四半期連結累計期間の利益は、主として国内における収益性が改善したこと等により、営業利益は前年同四半期を29.4%上回る76億円、経常利益は前年同四半期を32.2%上回る85億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期を47.1%上回る59億円となりました。

繰越高

繰越高は、前年同四半期連結会計期間末を5.3%上回る2,625億円となりました。

■ 通期の見通し

通期業績につきましては、2019年5月10日付決算短信において発表した予想数値を継続して

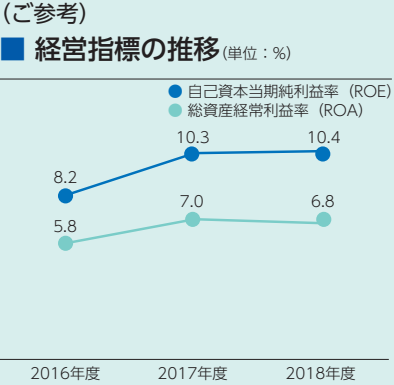
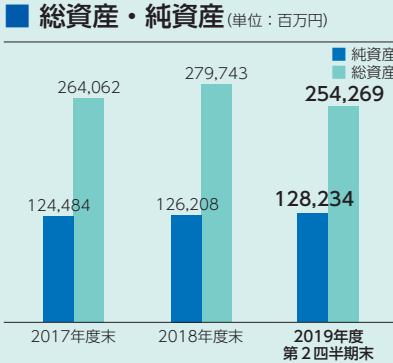
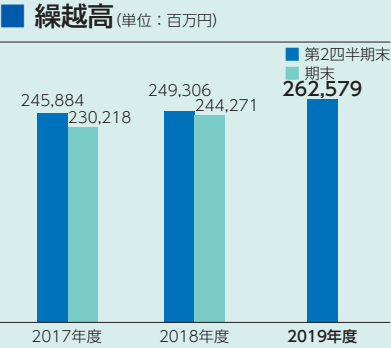
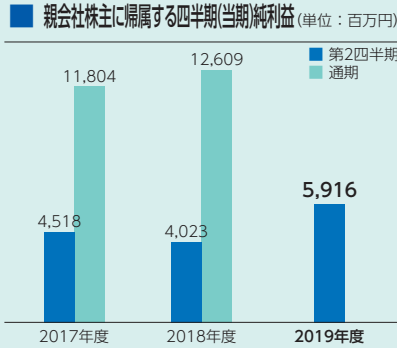
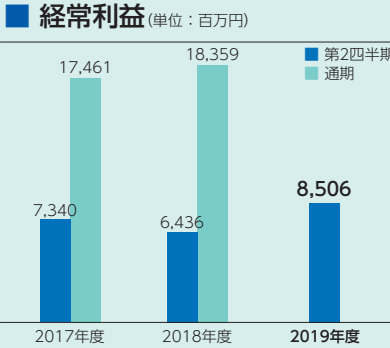
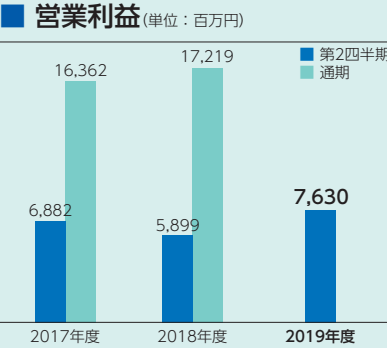
おります。

景気動向の影響を注視し、受注高については、繰越工事の消化体制等を勘案し、選別受注を実施して良質の工事確保に努めてまいります。

また、下期においても、労務の事前計画・平準化の徹底により、売上総利益の積上げを図り、ご期待に沿えるよう、取り組んでまいります。

■ 2020年3月期業績予想(通期)

売上高	3,200億円
営業利益	177億円
経常利益	185億円
親会社株主に帰属する当期純利益	128億円
受注高	2,850億円
繰越高	2,092億円



(注) 2017年度末の数値は「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等適用後の数値となっております。

高砂熱学グリーンボンドの発行

当社は、2019年7月、国内市場において公募形式によるグリーンボンド「高砂熱学工業株式会社第3回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（高砂熱学グリーンボンド）」を発行しました。

茨城県つくばみらい市に建設中の（仮称）イノベーションセンター（2020年1月末竣工）の建設資金および設備資金に充当し、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）＝（快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物）の実現を目指しています。

本グリーンボンドの適格性については、第三者評価として、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」といいます。）より「JCRグリーンボンド評価」の最上位評価である「Green1」の予備評価を取得し、国際資本市場協会が策定した「グリーンボンド原則2018」および環境省の「グリーンボンドガイドライン2017年版」の基準を満たす発行であることを確認しています。

また、「JCR」の評価では、SDGsの目標およびターゲットへの貢献についても評価されています。



目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに

ターゲット7.3. 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。



目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう

ターゲット9.4. 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。



目標11：住み続けられる街づくりを

ターゲット11.6. 2030年までに、大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」の構成銘柄に採用



2019 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数

当社は、MSCI社※1が提供する「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数（以下、本指数といいます。）」の構成銘柄に採用されました。

本指数は、MSCI社が作成する親指数（MSCIジャパンIMIトップ700指数：時価総額上位700銘柄）構成銘柄の中から、ESG評価に優れた企業を選別して構築される指数（2019年9月時点246銘柄）です。ESGリスクを低減した市場のベンチマークであり、その評価は

将来起こりえる様々なESGリスクに対して、その企業が相対的にリスク耐性が高いとMSCIが評価したことを意味しています。

当社は、本指数に2018年12月から現在まで継続して採用されており、MSCI ESG格付け※2は2回連続（2018年2月・2019年4月）で7段階評価のうち上位から2つ目の「AA」を取得しています。これは、当社独自の効率的で省エネルギーを実現するサービスや、安全衛生活動への取組が評価されたものです。

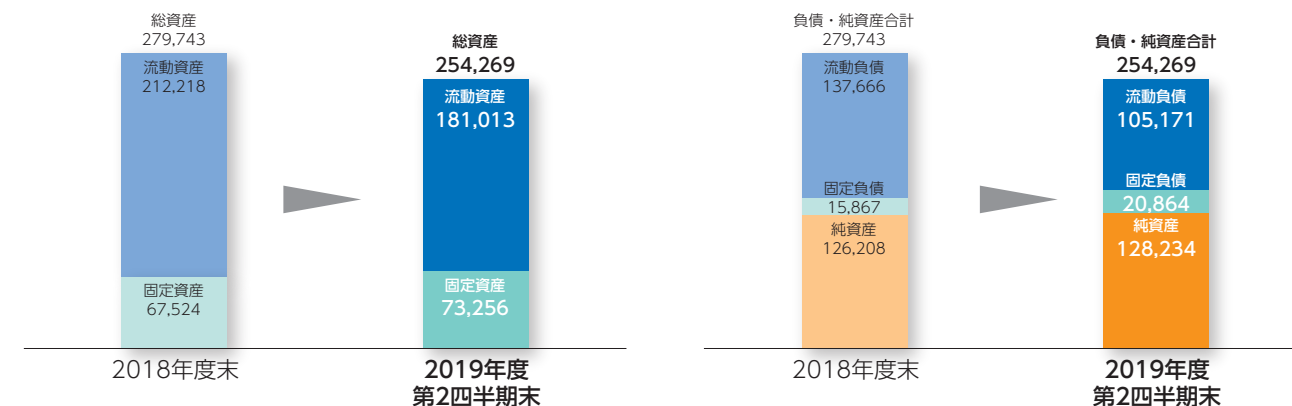
今後も、地球環境に貢献する環境ソリューションのプロフェッショナル企業として、持続可能な社会の実現に積極的に貢献し、長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

※1 モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル。世界の機関投資家(年金基金からヘッジファンドまで)に対して投資の意思決定をサポートしている金融サービス企業。

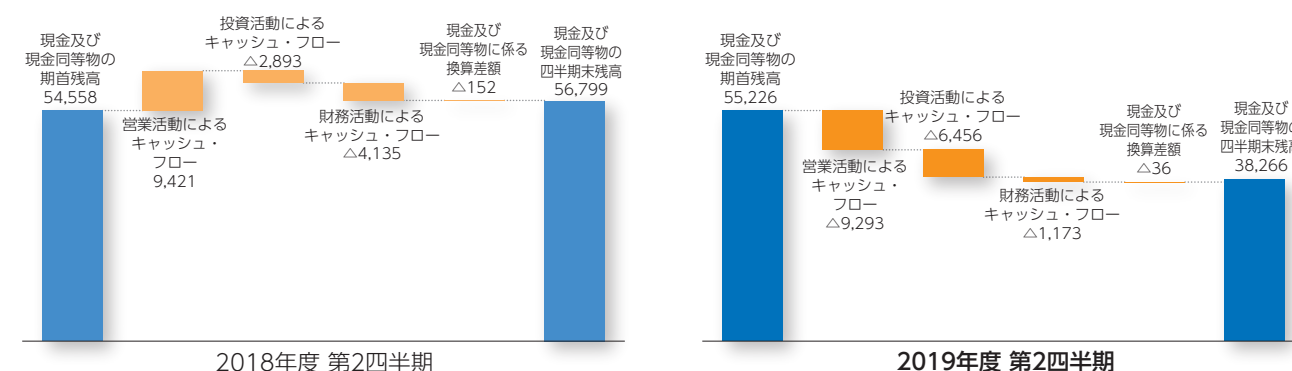
※2 企業が環境(Environment)社会(Social)ガバナンス(Governance)リスクをどの程度管理できているかを分析し、評価するものです。年1回更新されます。

(注) 高砂熱学工業株式会社のMSCI指数への組入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による高砂熱学工業株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

資産、負債および純資産の状況 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フローの状況 (単位:百万円)



- POINT 1** 総資産は、受取手形・完成工事未収入金等が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べて25,473百万円減少し、254,269百万円となりました。
- POINT 2** 負債合計は、支払手形・工事未払金等が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べて27,499百万円減少し、126,035百万円となりました。
- POINT 3** 純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて2,025百万円増加し、128,234百万円となりました。

- POINT 4** 営業活動によるキャッシュ・フローは、9,293百万円の支出(前年同四半期は9,421百万円の収入)となりました。これは主に仕入債務の減少などの支出が、売上債権の減少などの収入を上回ったことによるものであります。
- POINT 5** 投資活動によるキャッシュ・フローは、6,456百万円の支出(前年同四半期比△3,563百万円)となりました。これは主に有形及び無形固定資産の取得による支出によるものであります。
- POINT 6** 財務活動によるキャッシュ・フローは、1,173百万円の支出(前年同四半期比+2,961百万円)となりました。これは主に自己株式取得のための預託金の増加によるものであります。

お知らせ

株主還元について

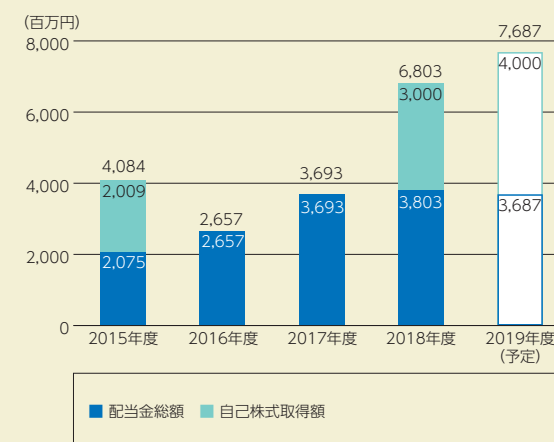
当社は、株主への利益還元を経営上の最重要課題の一つと位置付け、収益性と資本効率性を高めつつ、安定した配当を行うことを基本方針として、連結配当性向30%を配当の基準とし、かつ連結純資産配当率(DOE)2%を下限に配当を実施してまいります。

また、当社は、配当と自己株式の取得を合わせた総還元の考え方を有しております。配当性向を勘案するとともに、自己株式取得を含めた総還元性向を意識して、株主還元を推進してまいります。

当期における当社の中間配当金につきましては、普通株式1株につき26円とさせていただきます。また、期末配当金につきましては、普通株式1株につき26円とし、年間52円を予定しております。

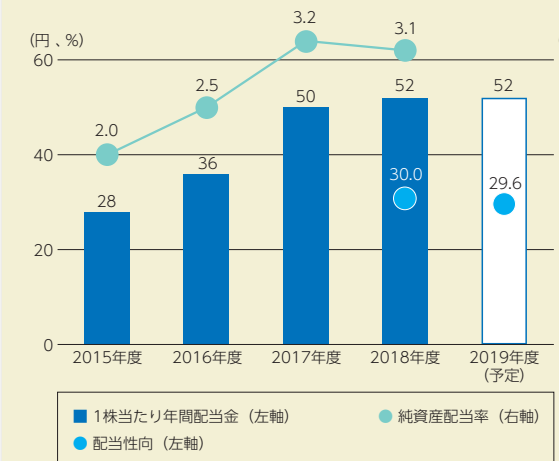
また、自己株式の取得につきましては、2019年8月9日に取得金額40億円(株式数250万株)を上限とする自己株式の取得を取締役会にて決議いたしました。経営環境の変化や株価の動向に対応した機動的な資本政策の遂行および資本効率の向上を通じた株主利益の増大を図ってまいります。

配当金総額・自己株式取得額の推移



※自己株式取得額には、役員報酬BIP信託を含んでおりません。

配当の推移



会社概要

社 名
高砂熱学工業株式会社
Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.

設 立
大正12年(1923年)11月16日

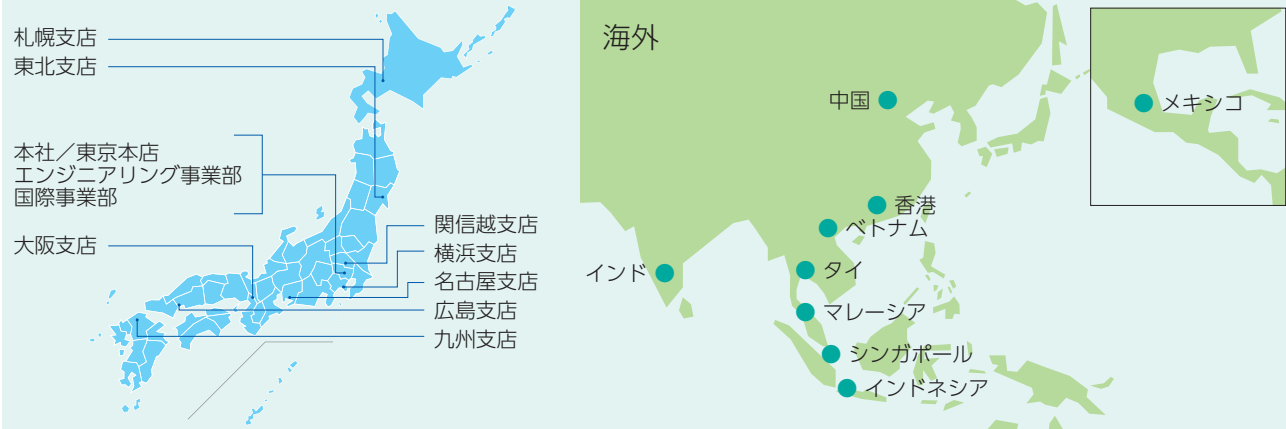
所 在 地
〒160-0022
東京都新宿区新宿六丁目27番30号

資 本 金
13,134百万円

従業員数
5,881名(当社 2,068名)

ホームページ
https://www.tte-net.com

主要な拠点



大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本生命保険(相)	4,560	6.34
第一生命保険(株)	4,231	5.88
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	3,380	4.70
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	3,294	4.58
高砂熱学従業員持株会	3,233	4.49
高砂共栄会	2,576	3.58
(株)三菱UFJ銀行	2,346	3.26
(株)みずほ銀行	2,177	3.02
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	1,091	1.51
JP MORGAN CHASE BANK 385151	1,079	1.50

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(7,859千株)を控除して表示しております。
3. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
4. 自己株式には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式(504千株)は含まれておりません。

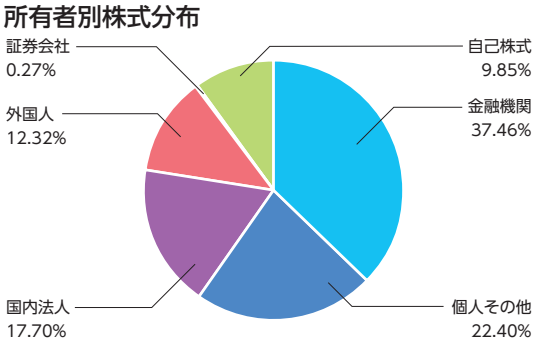
株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先 [お問い合わせ先]	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により当社ホームページに掲載 https://www.tte-net.com ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

配当金計算書について
配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告の際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告の際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願い申し上げます。

株式の状況

発行可能株式総数 200,000,000株
発行済株式の総数 71,906,240株
(自己株式 7,859,528株を除く)
株主数 5,657名
(前事業年度末比 52名増)



株式に関するお問い合わせ

- ・届出住所等のご変更
- ・配当金の受領方法・振込先のご変更
- ・単元未満株式の買取のご請求

口座を開設されている証券会社まで
お問い合わせください。

- ・特別口座に関するご照会
- ・郵送物の発送と返戻に関するご照会
- ・支払期間経過後の配当金に関するご照会
- ・その他株式事務に関する一般的なご照会

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部まで
お問い合わせください。
☎ 0120-232-711
(平日午前9時～午後5時)

INFORMATION

ホームページのご紹介

当社は、ホームページを重要な情報発信ツールと認識しており、決算情報のみならず皆様のご理解に資すると判断した情報を、随時掲載しております。ぜひ、ご活用ください。



<https://www.tte-net.com>

高砂熱学 🔍

IR情報メール配信のご案内

最新のニュースリリースやホームページの更新情報などをお届けいたします。当社IR情報サイトからご登録いただけますので、ぜひご利用ください。



https://www.tte-net.com/ir/ir_html

高砂熱学 IRメール配信 🔍

IRカレンダー



	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
決算発表		● 期末決算発表			● 第1四半期決算発表			● 第2四半期決算発表			● 第3四半期決算発表	
株主総会		● 招集通知発送		● 定時株主総会開催								
配当基準日							● 中間配当株主確定				● 期末配当株主確定	
有価証券報告書 四半期報告書			● 有価証券報告書発行									
					● 第1四半期報告書発行			● 第2四半期報告書発行			● 第3四半期報告書発行	
株主向け報告書			● 株主向け報告書(期末)発送					● 株主向け報告書(中間期)発送				
コーポレートレポート					● コーポレートレポート発行							



高砂熱学工業株式会社
Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.

〒160-0022 東京都新宿区新宿六丁目27番30号
電話 03(6369)8212(代表)
<https://www.tte-net.com>



見やすく読みまちがえに
くいユニバーサルデ
ザインフォントを採用
しています。

